

農事組合法人伍協牧場が農林水産大臣賞を受賞 —平成29年度全国優良畜産経営管理技術発表会—

平成29年11月30日、第4回「全国優良畜産経営管理技術発表会」が開催されました。奈義町の農事組合法人伍協牧場の花房尚徳氏が、「三世代にわたって歴史を刻む協業経営—地域と連携して協業と個別経営を両立させる多様な取組—」と題して発表し、審査の結果、最優秀賞・農林水産大臣賞を受賞されたので、その概要をお知らせします。

○経営の特色

① 協業経営の成功事例

構成員が個別の牧場を持ちながら、伍協牧場で協業経営を両立させています。毎月のミーティングで意見交換を行うことや、技術を共有できる利点が、40年以上継続できた要因になっています。

② 後継者の育成

30代の後継者が4人就農しており、親から協業の理念や技術を引き継ぎながら、機械整備や経理、営業等それぞれの得意分野を活かしてさらに経営を盛り上げています。

③ 多品種飼養による経営の安定

経営開始当初は乳雄の肥育中心でしたが、時代の流れに合わせて交雑種や黒毛和牛を導入されてきました。多品種飼養は生産原価の高騰や販売価格の下落時のリスク分散につながっています。

④ 和牛繁殖肥育一貫経営への挑戦

平成26年から和牛繁殖にも取組まれており、素牛の確保やコスト削減を図っています。

⑤ 地域への貢献

地域の雇用創出に貢献しているほか、町内産の稲WCSや黒大豆を飼料として購入し、堆肥を販売することで、循環型農業にも寄与しています。

○今後の経営展開

先代が築き、培ってきた飼養技術や協業の理念を継承しつつ、視野をより広げ、時代に応じたやり方、取り組みを、3代目が中心となりやっていきたいと、語ってくれました。

○審査講評

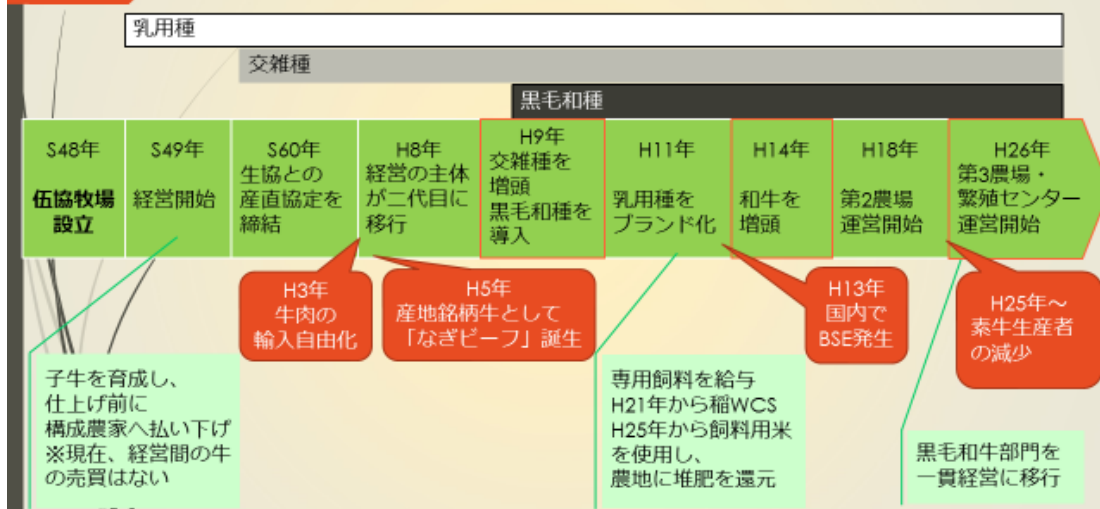
評価を受けたのは以下の6点です。

- ①3戸の強みが伍協牧場で体现され、その成果が各経営に活かされるという好循環になっている。
- ②乳用種は生産費が保証される価格で生協と取引しており、黒毛和種と交雑種は地域ブランドとして販売している。
- ③牛歩などを活用し、平均分娩間隔12か月の繁殖成績を収めている。
- ④牧場内で完全発酵堆肥を製造しており、販売額は5,000万円を超える。一部は粗飼料の耕畜連携に用いられている。
- ⑤月次決算を行っているが、毎月の税理士の指導や農協職員を交えたミーティングにより問題の把握が迅速にできている。
- ⑥従業員の役割分担が明確で、分業のメリットを発揮している。

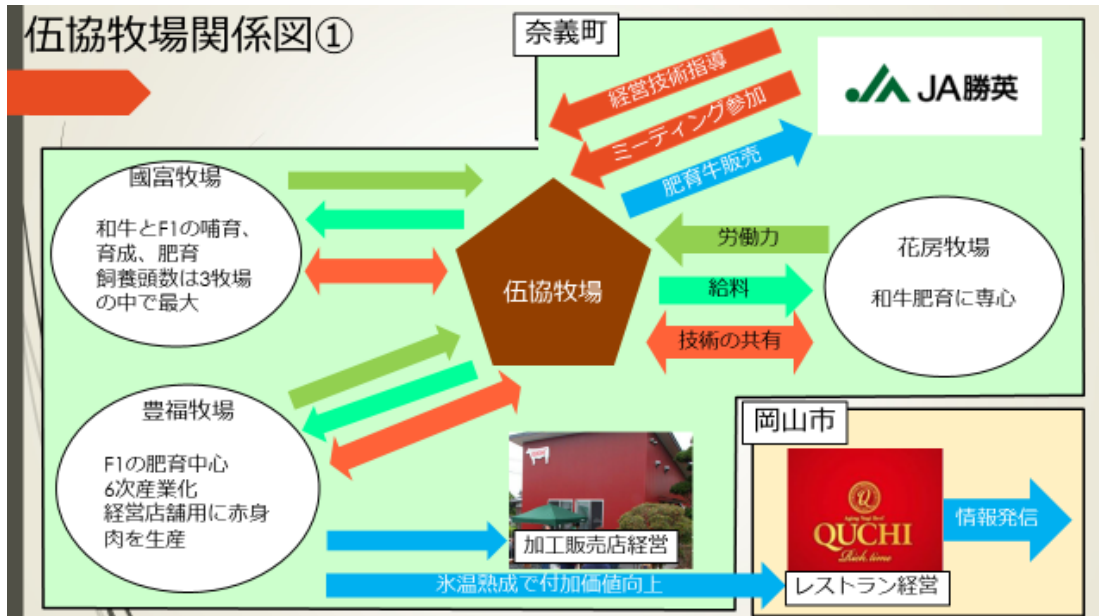


(左)審査委員長：横溝教授
(中央)花房氏 (右)JA 勝英：末菅氏

経営の推移



伍協牧場関係図①



伍協牧場関係図②



肥育技術



経営の特徴

協業経営

- ★月に1度、構成員とJAが集まり意見交換
- ★毎日、構成員でミーティング
- ★定期的な従業員のミーティングと勉強会
- ★飼養技術の共有
- ★適材適所
- ★各農家に公平なルールづくり（給与や労働出役）

切磋琢磨し合う
牧場経営

親子3代続く
経営に

時代の流れに応じた飼養形態

- ★乳用種・交雑種・黒毛和種の3種の肥育
- ★乳用種は生協との相対取引
- ★交雑種と黒毛和種はブランド化による高付加価値化
- ★和牛の繁殖・肥育一貫経営

リスク軽減

安定した
経営

今後の経営展開

★繁殖部門の強化

繁殖母牛を100頭増頭



★省力化

大型機械の導入と牛舎の増改築

★ブランド力向上

「なぎビーフ」を全国的なブランドに



★組織体制改革

指揮命令系統の明確化と従業員教育